

試験番号：II J-09-0054(3)

受付日：平成22年 1月20日

報告日：平成22年 3月31日

木造接合部の強度試験

[羽子板パイプ金物/DH ツイン羽子板/引張試験]

報 告 書

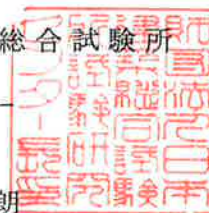
試験結果は、本報告書のとおりであることを証明します。

財団法人 日本建築総合試験所

試験研究センター

センター長

工学博士 井上 一郎



技術管理者

構造要素試験室長

完山 利行



試験名称	木造接合部の強度試験 [羽子板パイプ金物/DH ツイン羽子板/引張試験]		
依頼者 (所在地)	株式会社 ダイドーハント (大阪府大阪市中央区西心斎橋1丁目5番5号)		
試験実施日	平成22年3月3日～3月4日		
試験体	形状寸法	図-1.1	
	接合金物	(商品名)DH ツイン羽子板 【材質:SPHC(JIS G 3131)相当, 形状・寸法:図-1.2】	
	接合具	柱側	六角ボルト M12×L140 (1本, 接合金物と柱を接合)【規格:Zマーク表示金物】 角座金 40×40×4.5 (1枚, 六角ボルトと柱を接合)【規格:Zマーク表示金物】
		横架材側	六角ボルト M12×L180 (1本, 接合金物と横架材を接合)【規格:Zマーク表示金物】 角座金 40×40×4.5 (1枚, 六角ボルトと横架材を接合)【規格:Zマーク表示金物】
	柱	・木材の樹種等:すぎ製材【無等級材】	
	試験体数	7体(うち1体は予備試験体)	
	備考	1. 試験体構成部材の諸元を表-1に示す。 2. 試験体構成部材の加工および試験体の組み立ては依頼者により行われた。 3. 上記の図表および仕様は依頼者提出資料による。	
試験方法	準拠基準	「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)、第6章 試験方法と評価方法、pp.561～592」((財)日本住宅・木材技術センター)に準じて行った。	
	試験装置	図-2	
	載荷方法	予備載荷用試験体は単調引張載荷、本試験は一方向の繰返し引張載荷とした。繰返し載荷は、予備試験で得られた降伏変位 δy の1/2,1,2,4,6,8,12,16倍の順で各1回とした。	
	試験体の設置方法	試験体の横架材の両端部を800mmで固定した。	
	測定機器	荷重値の検出には50kNロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定は、図-2に示す位置に設置した変位計を用いた。	
試験結果	・試験結果の一覧 ----- 表-2 ・P- δ 関係の包絡線(試験体相互の比較) ----- 図-3 上記試験結果中に示した記号の定義を[付録1]に示す。		
	短期基準接合耐力(P_s):11.4kN 短期基準接合耐力の算定方法を[付録2]に示す。		
担当者	構造部 構造要素試験室 試験責任者 今西達也 試験担当者 松田司		